山内エコクラブ・ふるさと絵図作成プロジェクト　平成27年10月17．18日

地域聞き取り会報告

テーマ：よみがえる！ふるさと山内　人の記憶を地域の宝とし、未来を創る。

目的：「ふるさと絵図」は、そこに生きる一人ひとりの心に息づく思い出を集めて描く、地域の「生活ものがたり絵」です。その土地の生業や生活風俗、祭りや行事、四季のうつろい等、絵屏風に刻み込まれるのは、地域における人々の生活のあらゆる場面に及びます。滋賀県立大学　上田洋平先生の指導の元、県内では３０か所以上で作成に取り組まれています。

山内エコクラブでも、過去６年間の子どもたちと取り組んできた聞き書きを発展して、地元を愛する地域の方々と一緒に知恵と記憶を集めるふるさと絵図作りに、本格的に動き出しました。

尊厳ある先人の知恵は未来につながる歴史として後世に残していくために、高齢者の記憶をもとに、地域のつながりや自然との共生文化の見直し、モノを大切にする循環型エコ社会の再構築をめざします。

地元だけにとらわれずに、他所に発信し、他所から見に訪れる文化と知恵がいっぱい詰まる絵　図を地域の宝として創りだし、地域を元気にしていきましょう。

今回は関西学院大学の学生さんにもご協力頂きました。出された思い出話を一部紹介します。

一部差別的な表現がありますが、民俗・時代背景によるものとご理解ください。

黒川

・青瀬が橋は板橋だった　洪水でも橋は流れなかった
　大雨の時は流しておく
・家には牛がいた、牛は家族、農業で牛を使うが、牛が機嫌を損ねたら田んぼの中で動かなくなって大変だった、牛は頭がいいかならな
・牛はトラクターかわりだったが、お金がなくなると牛を売ることもあった。かわいそうな気分だった。
・牛は黒い牛やな　農協で牛を買って、雌を産んだらお金になった
・山羊もいたな　乳のため、羊もいた・・・羊でセーター作らった
・歌舞伎役者が劇をした。オノエキクゴロウ　昭和２５，２６年ごろ
・土葬で昔は座かんやったけど、人が死んでから姿勢を作るのがたいへんだった、いつからか？寝棺になった
・マムシ、タニシ、ザリガニ食べた
・お米をつくのに水車小屋があったな

なんちゃって
早乙女

猪鼻

・昔は紅葉だけでなく桜もきれいであった
・寒所の桜はきれいだった、よく道草した
・東峠から西峠までずっと家があった　６０軒ほど
・いろいろな名字があり、それぞれい屋号があった
・昔は猪鼻にも太鼓祭りがあった
・正月の２日にはししまいが来たな
・２月の田村さんのお祭りでは伊勢（三重県）から来る人の休憩場であった
・昔の火頭古神社の紅葉はもっときれいで、写生に来る学生もいた
・お医者さんは土山の松本さんところに行ったけど、山内にも立川さんがあった。だいたい６０歳くらいで亡くなっていたけど
・友達関係は仲良く、字に子どもが２５人ほどいて、上級生が指導した

山中

・昭和１０年代頃は女性は着物を着ていた
・結婚は拒否できない
　家のかくをそろえてある程度親が決めた「もうたってくれ」と。
・離婚したら、家の敷居はまたげない　　出産に時期を思案した
・姑さんや小姑さんの対応は気を遣った、
・洗濯は川か井戸。お風呂の水は川の水
・産婆さんが来てくれ自宅出産　　産婆さんは自転車で来てくれた
・おむつは浴衣を切って作る
・田んぼに赤ちゃんを連れて、籠に入れておいたら落ちていた
・嫁にとついいだあと、嫁煎り道具を近所が確認した
・盆踊りは楽しかった　　子どもの成長がなによりの楽しみであった
・お正月はおせち料理作りなどで忙しかった、煮炊きもの
・餅つきは、かきもちやあられ作りで　６升くらいしたで

黒滝

・黒滝は奥に長い　三重県との隣接　　１０キロ奥で炭焼き
・黒滝の８割は炭焼きをした　　現金収入は炭
・炭をもって担いだ　１５キログラム程、重たい
・戦争が終わって、木材が必要とされて、木が売れた
・冬は雪がよくつもったな　　６０センチ以上
・祭りは７月１１日　花笠踊り　　長男だけ　雨が降ろうが関係なくした
　祭りではお客さんを迎えて、親戚でご飯作った
　巻きずし、どうかんだんご　鶏をつぶして食べた
・かまどでお米を炊くが、手での水加減　　麦ごはんが多かった
・身籠っていても働いた、よく動いたほうが流産しにくいと言われた
　そもそも、強い子しか生き残れないのだ・・・・と言われた
・ウナギ、アユは御馳走だったが　食べた

吉田権衛門さん宅

・牛は博労（ばくろう）が三重県からぞろぞろと
　連れてきていた。
近くの地蔵広場で休憩させ、牛の草鞋を履き替えさせていた。足４本とも。
・山中に坂下名義の土地が多かった。坂下の方が裕福だった。
・東海道の名残…1 本松を切ることになったため、公民館の机やカウンターとして活用。
・万人講常夜灯、毎週日曜日、山中の人が、近所の草刈り・常夜灯近くのトイレ清掃など行っている。
・熊野神社には神宮寺があったが、廃寺になったため、そこにあった仏像は十楽寺に安置されるようになった。
・俵担ぎ競争があった。県大会種目にもなっていた。
・毎年４月 14 日太鼓踊りがされていたようだ。
・1 月 10 日はオコナイがあり、大きな注連縄で、子ども生まれる家や、結婚する家の男子がぐるぐる巻きにされ、叩かれた。近年はましになっているが、かつて林口幸治さんはこれで肋骨の骨にひびが入ったらしい。組によって激しさが違う。
・子どもが生まれたとき、氏子になった証としてお神酒を口につけた。
・牛ザンマイ（埋葬地）があった。ピーエスコンクリと、のでさん裏の２カ所。
・櫟野観音道、入口階段になっている。
・地名…よめおとし、いわどんどん　など、口伝えで残ってきている
　地名を記録してほしいな。

笹路・山女原

・夏の頃は、耕耘機なんてものはなく、牛の力を借りていました。朝早くから起きて、牛のかいばを作ってやり、おなかをいっぱいにしてやって、牛と共に田んぼに行った。雨の日は、カッパなんてなく、みのやござをまとって、牛と共に働いた。
・秋は、脱穀機なんてものは藁の棟で足踏でガタンゴトンと稲こぎをしました。それをカマスに入れて持ち帰り、夜なべに仕分けた
・藁ぞうりは通学の大切なはき物、学校が遠いので、２日の帰りは破れた。雨降りは、下駄ばきですが、帰りは鼻緒が切れた。
・女性は夜業に子どもの着物を縫う。夏は、浴衣、秋春は袷、冬は綿入れ、子どもの多い家は大変だったと思う。
・川をせき止め遊んだ　魚とり、
・カクレンボ、タンスナガモチ、縄跳び、馬跳び、木のぼりは楽しかった
　・山の神の唄をわけのわからん子どもたちが歌っていた